

ALPSフィルタ現地調査における説明事項（追加）の回答

Q (1) ALPSテント内の放射線管理（H I C排気の有無に関わらず実施するもの、必要十分とする根拠も含め）

- ・測定項目（空間線量率、表面汚染密度、大気中濃度、他）
- ・対象核種（セシウム、全 β 、全 α 、トリチウム、他）
- ・測定場所（配置図）、頻度
- ・過去データの推移（H I C排気の時間帯）

A (1)

<定点モニタリング>

- ・測定項目
⇒エリアモニタ、線量当量率、表面汚染密度、空气中放射性物質濃度
- ・対象核種
⇒エリアモニタ (γ)、線量当量率 (γ)、表面汚染密度 (β)、空气中放射性物質濃度 (β)
- ・測定場所（配置図）、頻度（添付参照）
⇒建屋出入口付近1箇所、週1回
⇒エリアモニタ2箇所、連続監視
- ・過去データの推移（H I C排気の時間帯）
⇒添付参照

【運用根拠】

放射線防護Gにて、人の出入りが多い建屋出入口付近に定点ポイントを定め、週1回、線量当量率、表面汚染密度、空气中放射性物質濃度を測定している。トレンドを確認し、有意な上昇があった場合は、必要な調査を実施している。

建屋内に2箇所設置されたエリアモニタについては、当直が監視している。また、放射線防護Gは毎日1回エリアモニタの指示値を確認している。

<作業環境モニタリング>

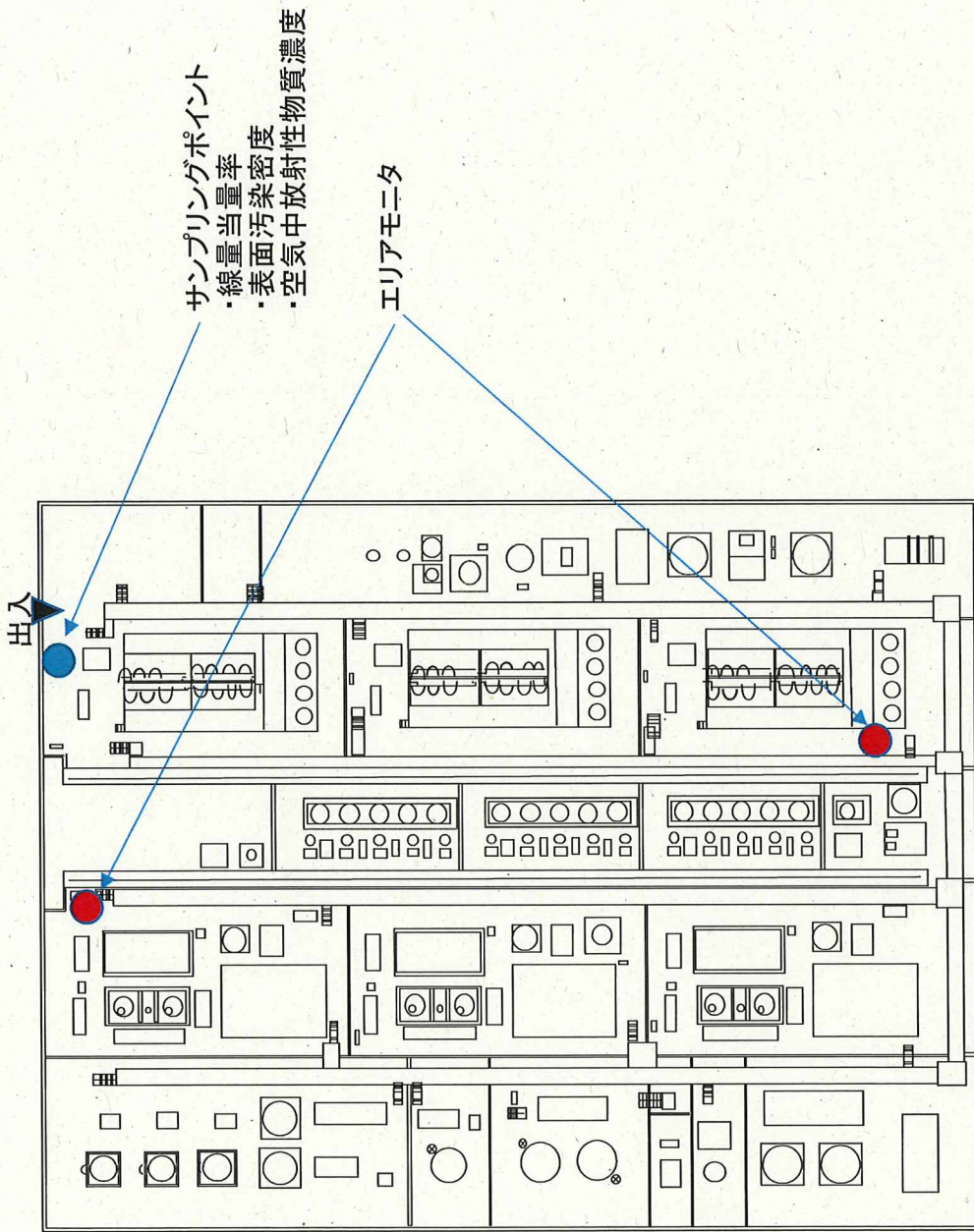
元請企業が作業エリアの作業環境モニタリングを実施している。

- ・測定項目
⇒線量当量率 (γ 、 β)、表面汚染密度 (β)、空气中放射性物質濃度 (β)
- ・頻度
⇒作業の都度

【運用根拠】

作業現場の放射線作業環境を把握するためのモニタリング。作業開始前、作業中の作業環境モニタリングの結果に基づいてその作業環境に合致した放射線防護措置を実施している。放射線管理仕様書で作業環境モニタリングの実施を要求している。

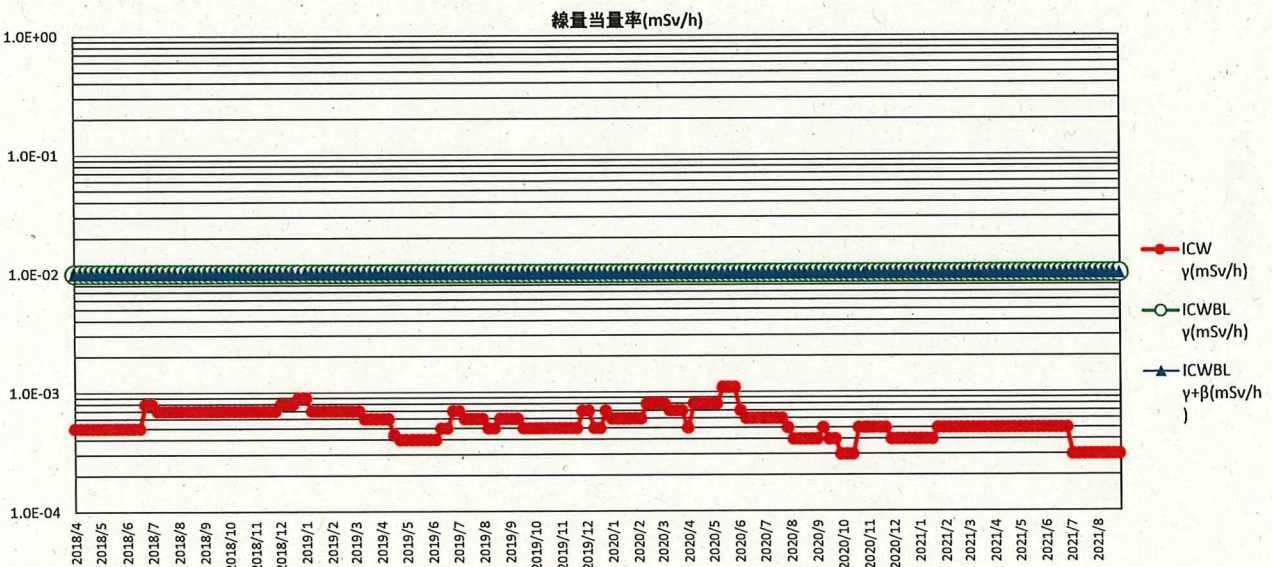
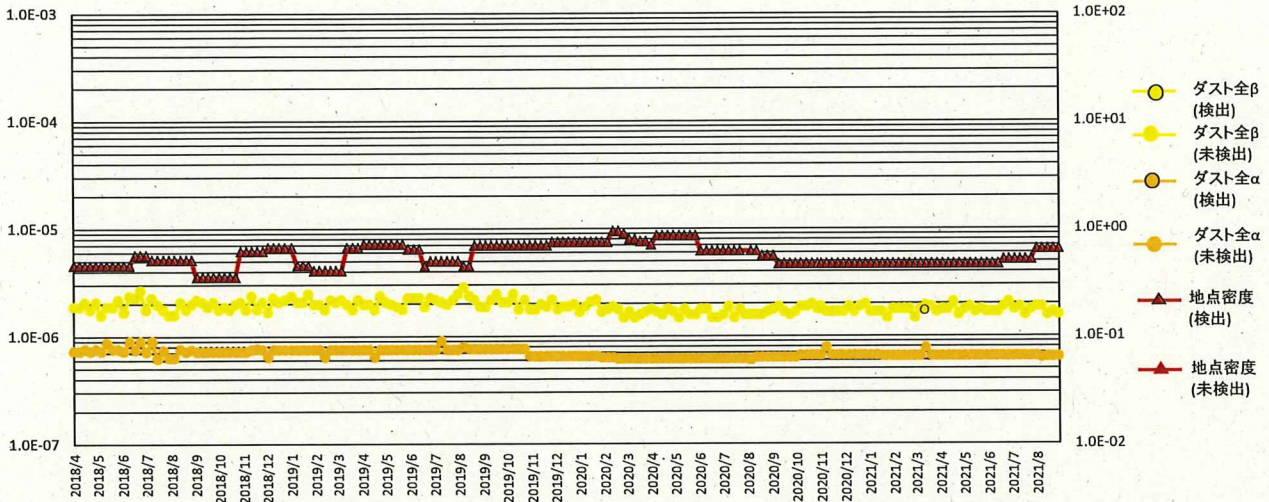
測定場所



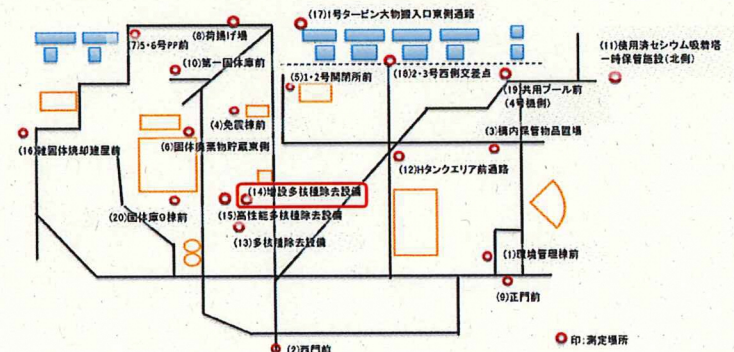
1F構内 ダスト・表面汚染密度・線量当量率状況 2021年8月分

(14) 増設多核種除去設備

[右目盛り]表面汚染密度(Bq/cm²)
[左目盛り]空气中放射性物質濃度(Bq/cm³)

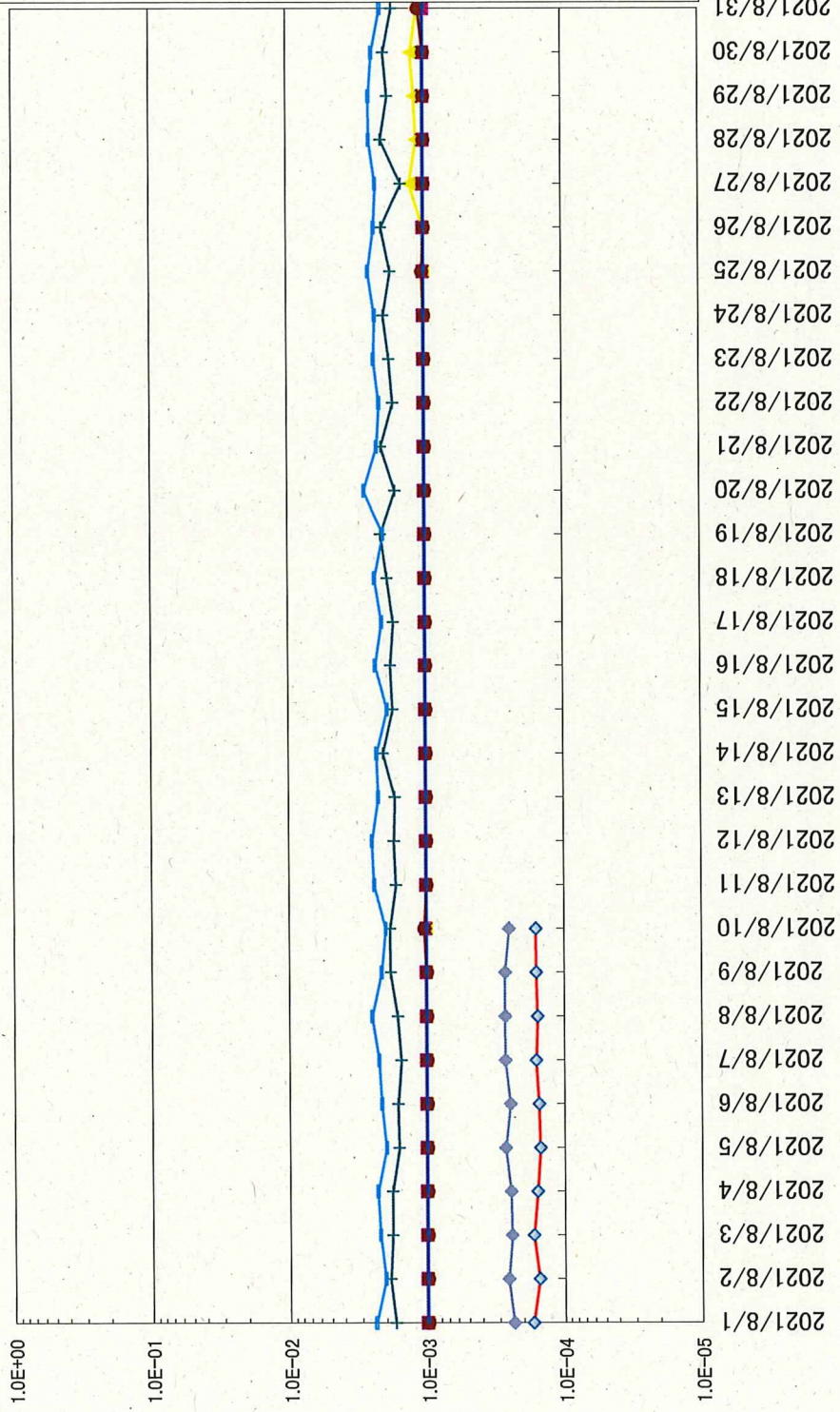
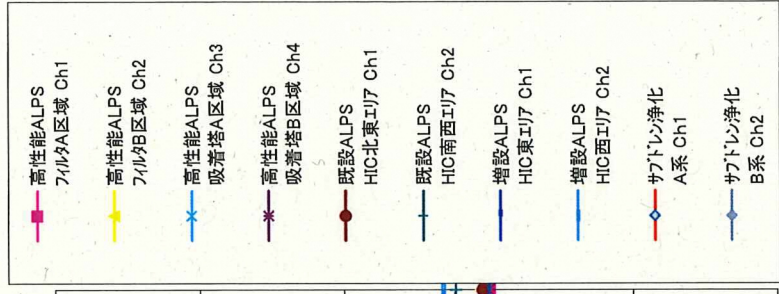


特記事項



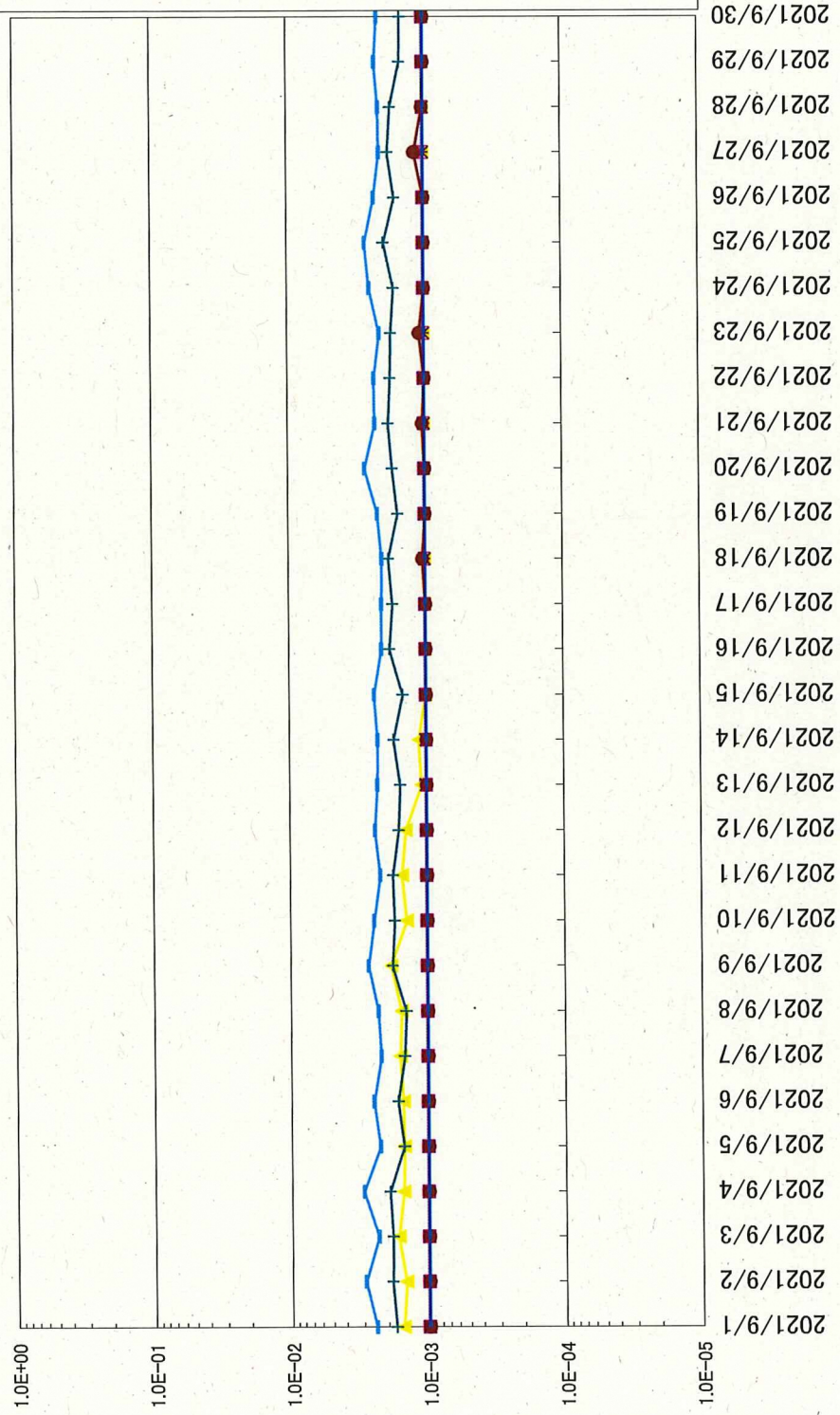
エリアモニタ指示値トレンドグラフ ALPS-ARM

[mSv/h]



エリアモニタ指示値トレンドグラフ ALPS-ARM

[mSv/h]



Q (2) 前処理や吸着塔の工程毎に、H I Cからの排気（スラリー等の移送）が生じる頻度や期間（継続時間）について、処理水量あたり（または運転時間あたり）で示していただきたい。

A (2)

A L P Sの吸着材の交換作業やクロスフローフィルターの薬液洗浄作業を実施する際、系統内のエアブローを実施しており、週 2, 3 回の頻度でH I Cから排気が生じております。また、A P L Sの処理運転時において、6 時間に 1 回程度の頻度でクロスフローフィルター内のスラリーをH I Cに廃液しております。その際、H I C内の空気が押し出されるため、H I Cから排気が生じております。

Q (3) H I Cに移送するスラリーや使用済吸着材に含まれる放射性核種と排気に移行する可能性のある放射性核種について示していただきたい。

A (3) A L P Sで除去対象としている 62 核種

Q (4) 上記(1)とは別に、H I C排気が生じる期間における放射線管理について示していただきたい。

- ・排気フィルタ用のダストモニタの測定の期間（H I Cへの移送との関係）
- ・ダストモニタによる管理の方法（警報、分析）
- ・ダストモニタ以外の管理の方法（ 〃 ）

A (4)

通常運転時はダストモニタの測定は実施していないが、フィルタ損傷を受けて、代替フィルタを設置しているため、それ以降のA L P S運転中において連続でダストモニタの測定を実施している。

- ・ダストモニタによる管理の方法（警報、分析）
⇒警報の有無確認している
- ・ダストモニタ以外の管理の方法（ 〃 ）
⇒なし